1998.12.15
第107号

編集・発行
福島県教育庁
会津教育事務所
遠藤久夫
編集協力
北会津・耶麻・両沼
地教委連絡協議会
小・中学校長会

たいしたことじゃないこと

福島県教育庁会津教育事務所総務次長　薄葉義彦

四月、教育事務所に赴任して間もなく、ある校長先生に言われたことがある。南会津で新任教頭の時、会計を担当し、初めての仕事で戸惑っている先生に対し、私が言ったそうだ。

「先生は、教頭職の他に、会計事務まで担当している。事務職員はプロだから厳しくするが、先生にはハンディがある分差引ます。」と。昔のことで、とうに忘れていたが、先生には本当に感謝された。確かに、私の記憶の中でも、教員で事務を執っていた方には親切にしたが、それには理由がある。

◇

昭和三十八年、県職員としてのスタートは、教育委員会事務局時代の南会津出張所であった。給料と旅費を担当したものの、算盤も良く出来ないし、なによりも条例・規則が理解出来なかったので、学校からの質問は恐怖でさえあった。

給料は手計算、つまり、共済組合の掛金等は率を乗じて算出する。それは全部算盤か計算機（タイガー計算機）での作業であった。だから、昇給月の給料計算書には、事務職員といえども間違いが多くあり、まして、事務に慣れていない先生方においては無理もなかった。

ところが、管内のある方部では、ほとんど間違いがないのである。

なぜ、この四校だけ間違わないだろう。聞いてみると一人のベテラン事務職員が、各学校を回って指導をしていた。

「○○さん、どうして他の学校まで面倒をみているんですか？」

「いや、困っているときはお互いさまで、ほんの少し手伝って、喜んでもらえば俺も気分がいいがら。たいしたことでねぇもの。」

◇

だから校長先生、それはお礼を言われる程のことではないのです。私もほんの少し先輩の真似をしただけで、たいしたことをしたわけではないのですから。

地域に学ぶ

蓮沼門三先生生誕の地

山都町教育委員会

山都町相川字蟹沢に和服姿の門三先生が銅像でお立ちになっている。

一八八二年、この地で先生が生誕されたのである。

先生は、山都町白子の高橋岩四郎、モトの長男として生を受けられたが、父は子の顔を見ないまま行商に出て行方不明となり、母は門三先生を連れて蓮沼家に再婚された。

高小卒後、準教員検定、正教員検定に合格、尋常小、高等小に奉職されるも更なる資質向上から、青山師範に入学、在学中から風紀粛正、環境美化運動を率先実行された。

更に大きな理想実現のため、修養団設立の決意を固め、一九〇六年師範学校長他職員、学生四百名の出席を得て、発会式が校内で行われた。

師範卒後、府下の高等小学校訓導として奉職、一九一〇年依願退職して修養団運動に専念された。

先生は、提唱、著作出版、指導を通して社会教育、生涯教育の理念に立ち、修養団運動を通して、生涯をかけて、その実現に尽くされた偉大な先覚者である。

立像の傍に信条としての、「愛汗の碑」がある。

人よ醒めよ　醒めて愛に帰れ
愛なき人生は暗黒なり
共に祈りつつ
全ての人と親しめ
わが住む郷に
一人の争う者もなきまでに
人よ起てよ　起ちて汗に帰れ
汗なき社会は墳落なり
共に祷りつつ
全ての人と働け
わが住む里に
一人の怠る者もなきまでに

誰にもわかりやすい言葉で、誰でも出来ることを提唱しておられ、人の道の指針として語りかけておられる。

特集 基礎学力の向上と校内研修

基礎学力向上を図るために、各学校では、児童生徒の実態に応じた様々な取り組みがなされています。

前号では、「まとめと評価の充実」や「指導資料の作成」について紹介しました。今回は、特色ある学校として「T・Tによる指導法の改善」に取り組んでいる学校を紹介します。

主体的に学習する子どもの育成をめざした全校体制でのT・Tの指導

―教師の協働による子どもの側に立った授業創りを通して―

会津若松市立行仁小学校

本校は、市教育委員会より平成九、十年度「T・Tの研究実践校」の指定を受け、算数科におけるT・Tの指導を通して主体的に学習する子どもの育成をめざし、「基礎・基本の定着」「問題解決学習の充実」「個を生かしたT・T」の三つの仮説を立て、実践的研究を進めてきた。日常的なT・Tの指導を通して教師自身を開き、互いの関係を見直し、全校的な協力体制づくりをしていくことは、「総合的な時間」など特色ある教育活動の土台となるものと考える。

本校のT・Tは「T・T担当の単元渡り歩きシステム」による全校体制の取り組みであり、日常的にT・Tの授業が行われていることや、どちらかの教師がチーフ・サブといった位置づけはせず、授業全体に同等の責任を持って授業創りに取り組んでいることなどが特色である。

一　T・T指導体制の確立

① 学力検査等から研究領域を決め、それらを中心に各学年のT・T指導単元を計画した。

② T・T担当については、一・三・五年が研修主任、二・四・六年がパソコン担当とし、単元を渡り歩く形で全学年・全学級で年間三～四単元のT・Tの授業が行えるようにした。

③ 全学年算数の時間を二～四校時に固定し、打ち合わせの時間も時間割に位置づけた。（日常的なT・Tにより教師の息があってくると、単元始めの打ち合わせの時間の他は、わずかな時間ですむようになる。）

二　実際の授業創り

① T・T担当が教材研究を深め、単元の観点別評価目標や各単位時間の基礎的・基本的内容を明確にした上で、子どもの側に立って単元を再構成したり、T・Tの形態・役割分担を考慮したりして単元の指導計画を作成する。

② 学年との打ち合わせにより指導計画を修正し、子どもたちの主体的な学習活動をうながす問題解決学習の流れにそったT・Tの基本的な指導過程を基に授業を展開する。（役割分担については固定せず単元の中で交代できるよう計画し、各教師の個性を生かして授業を創っていく。）

③ 単元を通してT・Tにより個を見取り、共感・賞賛・支援をしていく。

平成九・十年度を通して、これまで二十の授業実践を行い、研究を深めてきた。T・Tの三つの形態について、実践例を紹介する。

実践例1　考えの多様さや学習進度に応じるT・T

展開

T1・T2

課題：全員がかどから同じ距離のところに立つと、どんな形になるだろう

計画：・どんな形になるか（正方形、まる、円）・解決の手順

自力解決：・中心から4mの点が集まってできる形の作図・気づいたこと

評価

練り上げ：・等距離の点が集まってできる形は円・全員で円を作る・実活動にとりかかる

適用：・だ円が円でないわけ

評価

まとめ：自己評価

体育館で円を作り出す

体育館という広い空間で、円のスケールの大きさや美しさを十分味わい印象に残る授業となった。

実践例2　習熟の程度に応じるT・T

展開

T1・T2

課題：ポケモンスタジアムであそぼう（やってみて楽しもう）

計画：・学習したことの確認・解決の順序

自力解決：・練習問題を解く

評価

T1：適用・発展：・パソコンでゲーム・タングラム

T2：適用・発展：・パターンブロックで形づくり・しきつめ

適用・発展：・作った作品の紹介

まとめ：自己評価

選択した多様な活動（タングラム）

「ポケモンスタジアムであそぼう」というストーリー性のある単元構成、T・Tによる役割演技、単元を通して多様な学習活動などに取り組むことにより主体的に学習する姿が多く見られた。

実践例3　興味・関心に応じるT・T

手の面積を基にして
体の表面積を求める

単元末の発展的な選択学習の時間を六十分授業とし、学年全体を4Tで指導した。単元を通して4Tで個を見取り、それぞれの思いや願いに合った活動の場を準備したことにより、どの子も主体的に学習し、自分や友達のよさを認め合うことができた。

三　研究のまとめ

① T・Tの授業により「算数が好きになった」が34%から62%に増えるなど意欲の高まりが見られた。また、学力検査からT・T指導単元の領域が他の領域より高い通過率を示すなど基礎・基本の定着も見られてきた。

② 教材研究が深まり、それぞれの教師が個性を生かして教材・教具の準備をするようになり、子どもたちに多様な学習活動をさせることができた。役割演技での導入、お話仕立ての単元構成や単元を通して多様な学習活動への取り組み、個々が計画した課題別学習などにより子どもたちが主体的に学習に取り組む姿が多く見られた。

③ 学校施設を多様に生かした授業や学年全体での授業が日常的に行われ、お互いの授業観・児童観を変えていくことができた。

日常的なT・Tは、教師にとって互いの力量を見せ合うことになり、抵抗もあるが、「生きる力」の育成は学校や教師にとっての課題でもあり、T・Tによる協働を通して教師も意識を変革していくことが必要であることを痛感している。今後、教師間が開かれてきたこの体制を発展させ、教科を広げて「横断的・総合的な学習」を計画し、「総合的な学習の時間」への準備を着実に進めていきたい。

各学校では、これまで「自校プラン」に基づき、各教科のみならず、教科外における工夫をこらした実践が行われ、多くの成果を収めています。

実践を継続するにあたって大切なことは、日々の実践の反省を生かし、自校プランや学級プランの単純化・重点化を図り、児童生徒の実態に即し、より効果の上がるように改善し、一人一人に行き渡るように実践を積み重ねていくことが大切であると考えます。また、推進会議が中心となり、各学校では積極的に共同参観による授業研究会を実施し、指導法の改善とその共有化に努めています。その中で、授業者のよいところを少しでも取り入れ、指導者としての腕を磨くことが求められます。

今後さらに、その成果を生かし、「日々の授業の質的改善」という視点から、「校内研修の在り方」について、さらなる工夫・改善が必要ではないかと考えます。

ライフステージに応じた指導力の向上を図る校内研修をめざして

県教育委員会は、重点施策の指針のひとつとして、「社会の変化に主体的に対応できる心豊かでたくましい児童生徒の育成」を設定し、六つの基本的方向を掲げている。中でも『教職員の資質・能力の向上』は、中央教育審議会や教育課程審議会の答申でも重視されているように、二十一世紀を担う児童生徒の人間形成に直接的な影響力を持つものであり、校内研修が果たす役割は極めて大きい。

そこで、全ての教師がそれぞれのライフステージに応じて指導の腕前を上げ、児童生徒に生きる校内研修にすることが切望されており、改善案を提案したい。

指導の腕を磨く

一、共同研究の中心を、各学級の児童生徒の現状を担任（教科担任）がどのように改善するかに置く。授業がうまくいかないのを児童生徒のせいにせず、どうしたらよいのか、自分自身の全ての技量を駆使して解決に当たる。

二、児童生徒を引きつける指導技術の腕前を上げる。例えば、どのような発問をすれば多様な考えが出るのかとか、集中力を高めるには教材をどのように組織すればよいかとか、誉め言葉はどのようなタイミングで投げかけるかなどである。

三、日常的に、職員室等で児童生徒のことや指導法などを話題にしたりして、相互に情報や指導技術などの共有化を図る。

ライフステージに応じる

四、授業研究会では、研究主題についてだけの協議に終始することなく、それぞれのライフステージに応じた協議をする。例えば、協議の中でその教師が抱えている指導上の悩みなどへのアドバイスをすることなどである。

指導技術が蓄積される研究物にする

五、研究物は、仮説検証型でなければいけないというのではなく、研究の主眼は、あくまでも学級の実態に即してどのような指導の手だてを講じ、その結果がどうであったかを明確にし、学校及び個人の指導技術が蓄積されるようにする。

中等教育学校への期待

高等学校教育課会津教育事務所駐在管理主事　古関隆史

中学校でも高等学校でもない「中等教育学校」が平成十一年度から設立可能となった。いわゆる「中高一貫教育」の学校である。その意図するところは、生徒・保護者の選択により、六年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学び、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現をめざすことにある。これは、中央教育審議会において検討され、平成九年六月の答申に沿ってこのたびの学校教育法等の一部改正となり実現されるものである。来年度以降、各自治体の積極的導入が期待される。

すでに、国立・私立高校では実践されているところであるが、これらとは一線を画した公立学校の中高一貫教育が望まれる。この制度のメリットとして考えられる点をいくつかあげてみる。

① 高校入学者選抜の影響を受けずにゆとりある学校生活が送れる。

② 六年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき、効果的な一貫教育が可能となる。

③ 中学一年生から高校三年生までの異年齢集団による活動が行えることにより、社会性や豊かな人間性をより育成できる。

一方、これらの裏返しとしていくつかの問題点もあろうが、より前向きの姿勢で利点を生かした積極的導入が考えられる。特に、前記②のメリットを生かしながら、体験を重視する学校（専門的技術を身につける）や基礎からきっちりと積み上げた確かな学力を身につけることができる学校等が望まれる。

中高一貫校としては、この中等教育学校の他に中・高同一設置者による併設型や既存の中学、高校の連携型がある。各自治体が知恵をしぼり工夫をこらした教育施策を策定・実施することが、生徒や保護者の要望に応えるとともに、二十一世紀にはばたく子どもたちの育成につながる道でもあろう。

私の実践

自己選択・決定できる力を育てる図画工作科指導

会津高田町立尾岐小学校　教諭　平塚学

図画工作科では、子どもが自分の思いをしっかり持ち、その思いにそって表現していけるようにするため、「自己選択・決定できる力」を育てることが大切と言われている。そこで、「自己選択・決定する場」をできるだけ設定した授業を考え、五年の「動くおもちゃ」において実践してみた。

まず、子どもの思いを広げるために、回る仕組みを一つに固定せず、四つの中から自分の考えに合うものを選択させるようにした。材料は、題材に入る前に同一のセット教材を購入せず、必要なものを子どもに考えさせた。その際、いろいろなカタログを見せ、自分の思いにあったセット教材があればそれを購入させ、見つからなければ、どこで何を購入するか細かく指導を行い、自分で用意させた。学習計画も、子どもに考えさせ、自分の選択した仕組みや材料を自分の能力に合わせ、計画させた。

この結果、子どもが主体的に取り組むようになり、「先生、○○したいので、○○をください。」と、一人一人が自分なりの表し方を追求していく姿が見られるようになってきた。

今後、教師が今まで以上に子ども一人一人の活動をよく観察し、子ども一人一人の要求に応え、子どもの表現を後押しできるような支援を考えていきたい。

自己選択した仕組みと材料でつくる

生涯学習だより

地域の特性を生かした金山町の生涯学習

金山町教育委員会社会教育主事　髙畑健一郎

子どもの全人格的な発達は、学校教育と家庭や地域社会での生活体験が融合してなされるものであると思います。子どもを取り巻く今日的な様々な問題を解決するためにも、子どもの主体性・社会性・仲間づくりをめざす学校外活動の充実は極めて大きな課題です。

明日を担う、心豊かでたくましい子どもたちを育成するために、金山町中央公民館で行っている事業の一端を紹介します。

学校週五日制対応の事業として、ふるさとのよさを親子で発見する「親子文化財巡り」を実施しています。町内の小学五・六年生の親子を対象に、地域の人々との豊かなふれあいを通して、各地域の文化財や史跡を訪ねます。伝承文化やものごとの由来について、楽しみながら学習し、郷土のよさを再発見し、愛する心をはぐくむとともに、親子の絆を深めることをめざすものです。

また、地域ボランティアのリーダーを養成するために、中学二年生を対象に「青少年ボランティア講習会」を実施しています。「人のために少しでも役立つこと」をテーマに、講義や応急処置・介護の仕方、車椅子の試乗などの体験をします。

地元高校には、社会福祉コースが設置されています。それは地域の特性を前向きに捉えたものであり、その生徒たちとボランティア活動などで交流を深めています。

このような親子や異世代の交流を通した学校外活動には、学校及び関係機関との密接な連携が必要です。自然とふれあい、地域とのかかわりの中で、心地よい雰囲気を一緒に味わい「なすことによって学ぶ」「学んだことを生かしてみる」ことは、「自ら学ぶ力・生きる意欲」の源泉となります。

これからの子どもたちの学ぶ意欲・態度を育てながら「生涯学習」の基礎を形成するためにも、今後も改善を図りながら継続したいと思っています。

教育事務所短信

総務課

「ねぇお姉さん、今年の四月に旅費制度が改正になったって聞いたけど、そんなに変わったの？」

「そうなのよ。今までの考え方や、解釈も変わったし、柔軟な対応をしなきゃならないの。」

「ふーん。で、その中でも、特に難しいのや、注意しなきゃならないとこはどんなところなの？」

「いろいろあるけど、作らなくてもよい書類もあるわね。例えば在勤地内で歩いて行く遠足は、旅費が出ないってこと、貴女もわかってるでしょ。でも、学校によっては、遠足は、命令で旅行するんだからといって旅行命令書を作ったり、復命書を提出したりしてるとこもあるらしいよ。」

「でも、何故、要らないの？もしも公務災害にでも遭ったら大変じゃない。」

「あ、それは心配ないの。遠足は命令で行くんだから、当然公務災害になるわけよ。旅行命令書は旅費請求権の裏付けとして作るんだし、旅費が支給にならないものは作る必要がないの。」

「あ、そうなんだぁ。」

◇

大幅改正で大変心配した旅費でしたが、事務職員の皆様や、出納室の方々のお世話になり、少しずつ軌道に乗ってきたものと思われます。今後もいろいろと問題が生じてくることが予想されますが、その都度、力を合わせて解決していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

管理課

前期及び後期の各小中学校の管理訪問などから、今後の学校管理運営上の課題を提起したいと考えます。

一　管理運営に関する自校の課題を明らかにし、対応策を立てる。

1　自校の実態を的確に把握し、問題点を見つける。

2　課題について共通理解を図り、教職員の参画のもとに対応策を立てる。

3　児童生徒、保護者、地域、関係機関への働きかけを強める。

二　学校事故発生を想定した危機管理体制を整える。

1　事故の種別（交通事故、負傷事故等）ごとに、危機管理マニュアルを作成する。

2　教職員の危険予知能力及びマスコミ等への対応も含めて危機管理能力を高める研修を行う。

3　危機管理マニュアルを活用して、実際に機能するものにする。

三　学校事故発生時において留意したいこと

1　最悪を想定した対応に努める。

2　事故発生があったら、すぐ管理職に報告する態勢を日頃から徹底する。（たいしたことがないと勝手に判断しない。一度でだめなら何回も）

3　管理職者が不在の場合も、教職員が事故の対応ができるように体制を整備する。

4　管理職者は、教育委員会及び教育事務所への第一報を迅速に行う。（人名、火災、マスコミにかかわる時は、深夜でも）

5　緊急時の初期対応を的確に行う。

(1)　指揮者と現場派遣者との役割を明確にする。

(2)　情報収集を的確に行う。

①　現場検証に立ち会い、事故の状況、原因等を積極的に聴き取る。（複数対応を考慮）

②　警察署に行き原因を聞き取り、加・被害を確認する。

③　事故現場の状況の把握を的確に行う。（写真を撮るなど）

④　病院に行き、負傷の状況等の把握を積極的に行う。

四　その他

飲酒運転（酒気帯び）は、自らの意志であるという点で故意の犯罪に等しく、教職員として絶対に許されない行為であるとの認識を、事例等を使って具体的に徹底する。

養護教育センターだより

かがやく笑顔見るために

幼稚園や小学校、中学校の通常の学級でも軽度の障害のある子供や、学習上特別な配慮が必要と思われる子供たちが学習しています。このような子供への対応は、個々の特性を把握し、きめ細かな個に応じたかかわりが大切です。

当センターでは、このような子供たちの養育、教育等について随時教育相談を行っています。（申し込みは電話で）また、「学習障害（LD）児の教育研修講座」をはじめ、障害児教育に関する研修講座を行っています。幼稚園・小・中学校の先生方も受講できます（毎年、五月初旬受講希望締切）。

相談申し込み、その他問い合わせは左記までお願いします。

〒九六三－八〇四一
郡山市富田野字上ノ台四－一
☎〇二四－九五二－六四九七
FAX〇二四－九五二－六五九九
相談専用電話
☎〇二四－九五一－五五八九

ダイヤルSOSより

教育相談を通して思うこと

福島県学校教育相談員　横澤　桑子

四月から、「ダイヤルSOS」で電話相談を受けている。相談内容は、登校拒否、学校生活、いじめ、進路、家庭生活などと多岐にわたる。相談者も中学・高校生、親、教師、社会人とさまざまである。初めての私には、相手の気持ちにどれだけ近づくことができたか、と思うときがある。

これまでに受けた相談内容の中で、印象深く感じたことは、子どもたちが、いろいろな理由から登校できずに悩んでいることである。

例えば、朝になると体の不調を訴えて登校を拒んでしまうという親の声。勉強の遅れや、友だちができず学校へ行ってもつまらないという中学生。さまざまな面で自分の身をどう処してよいか分からないという高校生の悩みなどである。

こうした人たちの気持ちを、温かく受けとめ、相手の心が安らぎ、明日への希望につながる助言ができればと思っている日々である。

私たち大人は、子どもたちが、日頃、親や教師、友だちに自分の気持ちをもっと知って欲しい、と望んでいることを知るべきだと思う。

今後もできるだけ、学校生活に悩みを抱く人々のために、より適切なアドバイスができるように、一層の研鑽を積んで行こうと思っている。

受話器の向こうに、先生方や家族、そして本人自身が明るい明日を切り開いて行こうと、立ち向かっている姿が浮かぶ。

私の抱負

校舎の取り壊し

猪苗代町立東中学校
校長　安達良平

現在、本校の校舎は木造です。過去四十年の間、ここで学び、去っていった生徒たちのそれぞれの思いがこの校舎にしみ込んでいます。ただの物体とは受け取れません。

でも、来年夏には取り壊され、新しい校舎が建てられる予定です。

取り壊される寸前、全校生と職員できれいに掃除して解体に臨むことにしています。それがこの校舎への感謝と考えています。生徒たちの心にこのことを残してやりたいと思っています。

建築中、不自由な生活になるでしょうが、生徒共々「生活の工夫の機会」と捉えていきたいと考えています。

前を見据えて

三島町立三島小学校
教諭　横田順

私の好きな言葉に「見る前に跳べ」がある。あれこれ悩まず、即実行である。

教頭になって半年間、たくさんの方々に多大な迷惑をかけながら跳んできた。失敗から得たものも大きい。引き継ぐことの意味、緻密さや連絡調整の大切さ、そして、職員の和が学校を大きく動かすことなど身を持って体験できた。

今日も、職員室での先生方の話に混じりながら、「先生、まずやってみましょうよ。」と言っている自分。すぐそばの電話口からは、「教頭先生、今持ってこられた文書ですが…。」「うっ、また失敗。」それでも前進あるのみ。

一歩前へ

北塩原村立裏磐梯中学校
教諭　菅家真由美

校舎の窓から雄大な磐梯山が見える。自分の未熟さを感じたとき、その雄姿から何度も励まされ、勇気づけられてきた。

秋の日、その磐梯山に登った。そこは下界から見上げる華麗な姿とは別世界だった。荒々しい地肌、冷たく強い風にさらされながら耐えつづける姿は「信念をもってがんばれ」と語りかけているようで、心を動かされた。すばらしい眺望に心の霧も晴れて、視野が広がったように感じた。

夢だった教職の道も、登山のように一歩一歩踏みしめながら、子どもたちの成長のために全力を尽くしたい。

心に残る人々

会津本郷町教育委員会教育長　大石徹

S君は身体に障害を持ち、歩行が困難であった。毎日、母親の自転車で登下校をしていた。

当時、河東町の「藤倉二階堂」まで、約二十キロメートルの徒歩訓練の学校行事が行われていた。学級会でS君の参加が話題になった。彼は五年生まで不参加であった。級友達は、「ぜひ参加させたい。」と主張する。しかし難しい問題である。「先生。やってみなければ、進まねべし。みんなで力だすからS君つれてくべ。」この一言で、S君は母親同伴で参加した。百メートル、友達に支えられて歩き、母親の自転車へ。その繰り返し。悪戦苦闘の末に無事、徒歩訓練は終了した。

その後の彼と級友との取り組みは、凄まじいものであった。「S君を五十メートル泳がせよう。」という意志統一がなされ、ついに夏休み後の校内水泳大会、二百メートルリレーのアンカーを彼にまかせた。六学級中ビリの結果であったが、級友達は県学童新記録で優勝した小体連の時よりも喜んでいた。

S君は高校卒業後、大手の銀行へ入行し活躍中である。

私の作品

絵

美しい音楽をかなでる鳥

クレー「楽しいさえずりの機械」より
会津坂下町立片門小学校
六年　渡辺麻世

＜指導の工夫＞

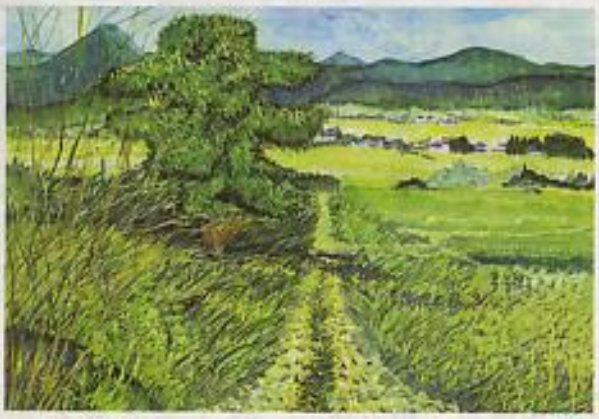
表したい世界を豊かに発想し工夫して表現できるよう、様々な作家の作品を鑑賞する場の設定や多様な表現方法、材料の提示をした。麻世さんは、クレーのさびしそうにさえずる機械の鳥がもっと楽しくなるよう、背景にはにじみぼかしやたんぽなどの技法を使い、鳥では絵の具や色紙などの使い方を工夫して表現した。

指導者　渡部憲生

絵

あぜ道のある風景

喜多方市立第一中学校
三年　小檜山聡美



＜指導の工夫＞

雄国山ろくから市街の方を望む風景を、夏という季節感とともに、奥行きや広がりの美しさが伝わってくるように、一本のあぜ道を中心に、一点透視図法によって画面を構成する工夫をさせた。

全体の調和を考えながら細部の配色にも気を配り、故郷の風景に対する愛着の眼差しが感じられる作品に仕上がった。

指導者　三浦克之